

苫小牧港は、開港60周年を迎えました。



【主文】

苫小牧港は、本年4月25日をもって、開港60周年の大きな節目を迎えました。昭和38年4月、石炭の積み出し港として開港した本港は、幾多の困難を乗り越え、現在では、国際拠点港湾の指定を受け、北海道経済、日本経済を支える北日本最大の港湾として成長を遂げてまいりました。

この開港60周年を契機に、苫小牧港の新たな魅力を発信することを目的として、「苫小牧港開港60周年記念事業」を展開していきます。

【苫小牧港川柳 略して「苦柳（せんりゅう）」】

苫小牧港開港60周年を記念し「苦柳（せんりゅう）」を募集します。

- テーマ
苦柳は、苫小牧港が開港100周年（2063年）を迎える頃の時代を想像し、希望に満ち溢れ、さらなる進化を遂げた苫小牧港を思い描くような作品をご応募ください。
- 募集期間
令和5年4月25日（火）から6月30日（金）まで
- 応募資格
制限なし



つぶやき
はじめました



苫小牧港開港60周年記念事業
@portoftoma60th



【Twitterはじめました。（1年間限定）】

苫小牧港について、少しでも関心を持っていただく目的で、Twitterをはじめました。60周年にちなんで、60回程度の投稿を予定しています。よろしければ、フォローをお願いします。

（苫小牧港管理組合）

「コロナ禍前の、にぎわいを。」

～第56回 枝幸かにまつり 開催します！～

新型コロナウイルス感染症の影響から、やむなく中止していた枝幸町最大のイベント「かにまつり」を4年ぶりに開催します。



↑ 漁船パレード



↑ 毛がに 早食い競争

今年のテーマは「コロナ禍前の、にぎわいを。」とし、7月1日（土：前夜祭）2日（日：本祭）の日程で行われ、地元漁師による漁船パレードのほか、毛がにの早食い競争、毛がにが当たる抽選会、YOSAKOIソーラン大賞受賞歴をもつ「夢想漣えさし」による演舞などなど、ほかにも見どころが満載です。ぜひお越しください！



夢想漣えさし

【お問い合わせ先】
枝幸町観光課
0163-62-4242



枝幸町観光協会HP

5月5日は「かずの子の日」

みなとオアシスるもいPR事業を実施

留萌市では、5月5日を「かずの子の日」と定め、留萌の特産物である「かずの子」を知ってもらうことを目的に「かずの子のマチるもいフェスタ」を開催しており、たくさんの市民に来場いただいております。

「みなとオアシスるもい運営協議会」では、イベントの開催に併せ、令和5年5月5日（金・祝）に、「るしんふれ愛パーク」にて「みなとオアシスるもい」PR事業を実施いたしました。



「KAZUMOちゃん」
(留萌市公認キャラクター)



「かずの子のマチるもいフェスタ」の様子

PR事業としてみなとオアシスの代表施設である「るしんふれ愛パーク」管理棟1階で「みなとオアシスるもい」のリーフレット、ポケットティッシュの配布及びパネル、のぼり旗の展示を行いました。



「遊びにきてMO〜」



みなとオアシスるもいPRブース



みなとオアシスるもい
(るしんふれ愛パーク) 全景

今後も留萌の「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、継続してPR事業を実施してまいります。

留萌へお越しの際は、「みなとオアシスるもい」に是非お立ち寄りください。

(留萌市地域振興部経済港湾課)

「北海道の港湾を活用したゼロカーボン北海道の推進のための連携・協力協定」を締結！

国土交通省北海道開発局と北海道電力株式会社は、港湾を活用したゼロカーボン北海道の取組に関する効果を最大限に発揮させるために、4月28日に連携・協力協定を締結しました。

港湾におけるブルーカーボン生態系による二酸化炭素の吸収・貯留に関する検討や、港湾を活用した火力発電所のゼロカーボンに向けた情報交換を進めます。

今回の協定締結について、石塚 宗司北海道開発局長は、「火力発電用の脱炭素燃料として注目される水素・アンモニアについて、北海道電力では、CO2削減量や経済性の検討が進められているところであり、将来的な大型船による受入に向け、情報交換や課題の抽出、港湾における活用等を検討していく。また、現在策定を進めている新たな北海道総合開発計画においても、食と観光に加えて、脱炭素化を3つ目の柱と考えており、本協定締結を契機に港湾の脱炭素化の取組をさらに発展させたい。」と述べました。

また、藤井 裕北海道電力社長より、「今回、苫東厚真発電所が立地する太平洋側を新たな試験フィールドとして、ブルーカーボン生態系によるCO2の吸収・貯留などについて北海道開発局と共同で検討を進めていく。今回の協定締結は、お互いが保有する技術や知見を持ち寄ることで、ゼロカーボン北海道の実現に大いに貢献できるものと考えている。」と述べました。

両者はゼロカーボン北海道への取組を通じて、北海道総合開発計画に掲げる低炭素社会の形成に貢献してまいります。

【締結式の詳細↓】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/kouhou/slo5pa00000116nf-att/slo5pa00000129zi.pdf>



協定書を掲げる藤井裕社長(左)と石塚開発局長(右)

(港湾空港部港湾計画課)

天然コンブ漁場におけるブルーカーボンによるCO₂吸収量の調査を開始

北海道開発局及び寒地土木研究所は、北海道大学大学院情報科学研究院、えりも町、えりも漁業協同組合と連携し、えりも町沿岸の天然コンブ漁場を対象としたブルーカーボンによるCO₂吸収量の調査を行います。

えりも町は、天然コンブ漁獲量全国1位の産地として知られています。同町は、明治以降、木々の伐採や、放牧などによって、大地は砂漠化し、えりも岬特有の強風によって舞い上がった赤土は沿岸の海を濁らせ、海藻類は根腐れをおこし、回遊魚や沿岸の魚も減少しました。このため、関係者が一丸となって緑化事業を実施し、豊かな緑と海の資源を回復させてきた歴史があります。

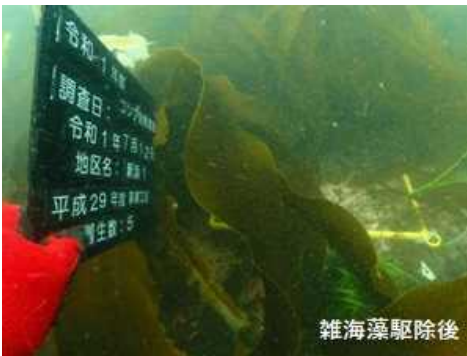
この緑化事業は現在でも継続して行われており、さらに、コンブ漁場を守るため雑海藻駆除も実施されています。これらの取組は、緑と海の資源確保だけでなく、グリーンカーボンとブルーカーボンによるCO₂吸収の観点で、その重要性が増しています。

今回の調査では、開発局と寒地土研はブルーカーボンによるCO₂吸収に関する調査・推計の実績に基づき、えりも町とえりも漁協が実施する現地調査結果から、両者が連携し、天然コンブ漁場のCO₂吸収量を把握します。

さらに、北大大学院情報科学研究院・長谷山研究室とも連携して、ドローンによる撮影画像からAIにより、海藻類の広大な生息面積を効率的に算出する技術開発を進めます。

本年6月に関係者による第1回検討会を開催し、えりも町周辺での現地調査を行い、年内のCO₂吸収量の算定を想定しています。各者が連携し、ゼロカーボン北海道の実現への取組を通じて、北海道総合開発計画に掲げる低炭素社会の形成に貢献してまいります。

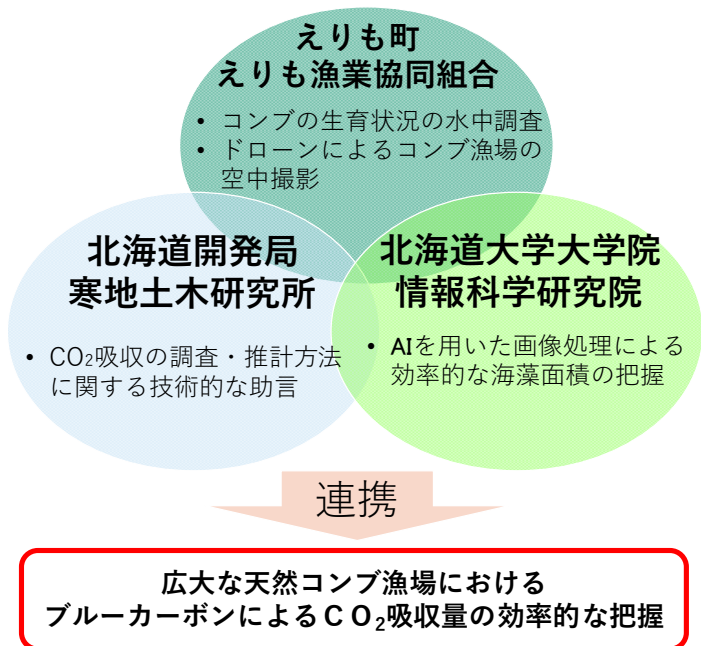
<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/release/slo5pa0000010y86-att/slo5pa0000011tid.pdf>



雑海藻駆除後



雑海藻駆除による天然コンブの増加（えりも町）



(港湾空港部港湾計画課)

「函館港クルーズターミナル整備事業」が 土木学会北海道支部技術賞を受賞

■道内1位のクルーズ寄港地になるなど急増する需要に対応するため、観光地に隣接する函館港若松地区において実施した「函館港クルーズターミナル整備事業」において、生産性向上、安全及び環境に配慮した技術的対応を評価いただき、この度、土木学会北海道支部技術賞を受賞しました。

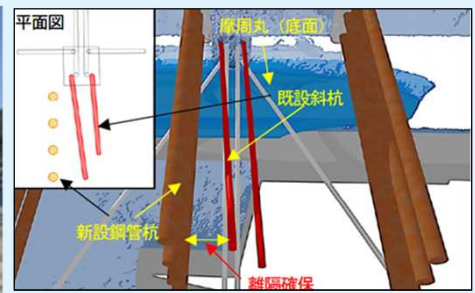
■事業実施においては、下記に示す課題を技術的対応により解決を図りました。

①岸壁の早期供用：BIM/CIMモデル活用による施工時の手戻り防止

- ・3次元レーザースキャナー測量で周辺施設等の現地情報を収集し、BIM/CIMを活用した施工検討を実施。
- ・地中不可視となる栈橋鋼管杭のモデル化により既設構造物と新栈橋の杭の干渉を事前に把握することで設計段階から干渉を回避。



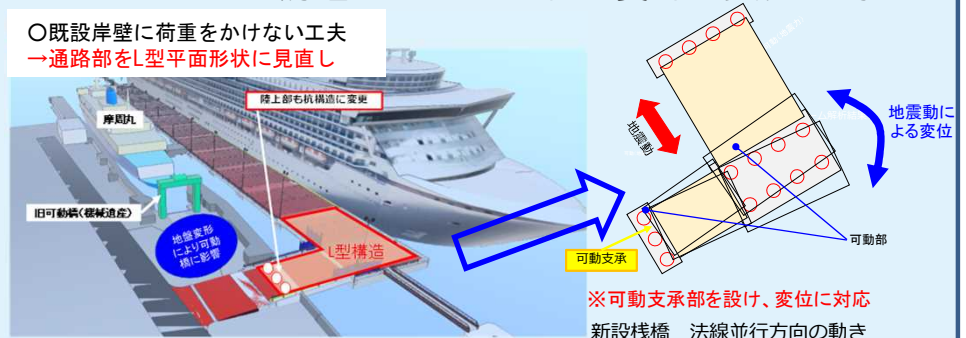
3Dスキャナーで現地情報を収集



地中不可視部のBIM/CIMモデル

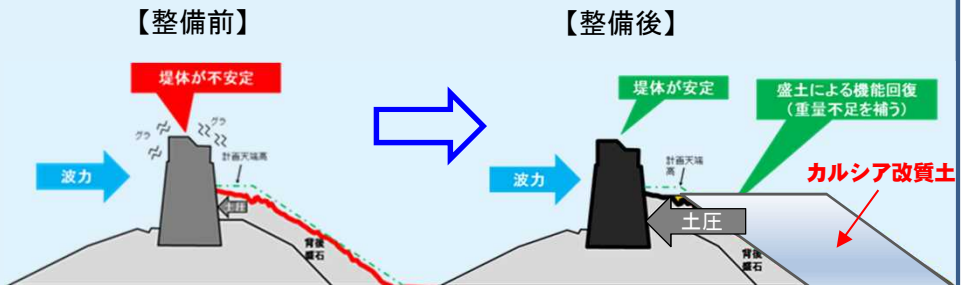
②機械遺産との近接施工：3次元フレーム解析により地震時の挙動を把握するとともに構造的工夫により地震時の変位に対応

- ・機械遺産を含む旧青函連絡船「摩周丸」等、既設構造物と近接施工となるため地震時に発生する応力を再現可能な3次元フレーム解析により栈橋の挙動を把握。
- ・通路部をL型平面形状に見直しを図り支承部可動域を広く設定することで3次元的な変位に対応させ既設構造物に対する影響を回避。



③浚渫土の有効活用：浚渫土の固化処理により防波堤の補強材に活用

- ・カルシア改質材の混合率とSS濃度との関係の把握により土砂投入時における海水の濁りの抑制を実現。
- ・北海道の低温環境下におけるカルシア改質土の強度発現特性の確認により防波堤の補強材として活用。



西防波堤背後盛土のイメージ

■今年からは、海外クルーズも再開され、本施設の利用が大いに期待されます。

【参考】土木学会北海道支部技術賞とは「公益社団法人土木学会北海道支部」が行う表彰で「北海道内において、土木事業の計画、設計、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなしたと認められるすぐれた技術」に授与されます。詳しくは下記HPをご覧ください。

https://www.jsce.or.jp/branch/hokkaido/_contents/com/index.htm

「港湾の施設の技術上の基準・同解説」の部分改訂について

令和5年4月3日付けで「港湾の施設の技術上の基準・同解説」の部分改訂（6点）が行われましたので、ご案内いたします。

1. 水没した防波堤による波の伝播変形に関する取り扱い手法

【基準 上巻 p177～178に追記】

潜堤上の伝達波に関する最新の研究成果が、参考文献として提示されました。

2. 防波堤の腹付工の設計（性能照査）上の取り扱い

【基準 中巻 p934～935、991に追記】

混成堤を割石で補強する場合の腹付工に関して、粘り強さを発揮するための形状に関する基本的な考え方が記載されました。

3. 海氷を考慮した設計・施工

【基準 上巻 p298～299-1に追記】

海氷の移動が活発な氷海域では、海氷の作用等により沿岸構造物の摩耗が促進されます。構造物の設計時にその影響を考慮している例があり、氷力の算定式や対策工の事例が提示されました。

4. 港湾鋼構造物防食・補修マニュアル改訂

【基準 上巻 p468～469、472～477、中巻 p603、605～611、下巻 p1476に追記】

R4.9月に改訂された港湾鋼構造物防食・補修マニュアル（2022版）が参考文献として提示されました。

5. 既存ケーソンの補強に関する設計・施工の手引き(案)

【基準 中巻 p612に追記】

既存ケーソンの補強に関する最新の研究成果が、参考文献として提示されました。

6. 親水性護岸等の転落防止柵

【基準 中巻 p977、1016、1026、1292、1309、1353、1419、1438に追記】

R3.8月の港湾緑地前護岸での転落事故を背景に、親水性護岸等における転落防止柵の格子間隔等に係る記載が拡充されました。

部分改訂の内容については、以下より確認できます。

（公益社団法人 日本港湾協会のホームページ）

<https://www.phai.or.jp/book/kowan-seigo20230403.html>

<問い合わせ先>

港湾空港部 港湾建設課 専門官(技術) 船橋 雄大 (内線5628)
課員(技術) 惠平 寿輝 (内線5648)

国土技術政策総合研究所にて行われる研修のご案内

国土技術政策総合研究所（横須賀庁舎）では、港湾の整備・管理等に関する専門知識等の習得のために有用な各種研修を実施しています。（詳細については、下記HPをご確認下さい。）

<https://www.ysk.nilim.go.jp/kensyu/index.html>

※令和5年度研修実施計画のp2「参加可能の別」欄に「☆」マークのある研修は、港湾管理者も参加可能な研修となります。

6月以降に港湾管理者の皆様が参加可能な研修（申込期限前）は、以下の通りとなります。

- ①海洋環境コース：8月29日～31日
- ②海岸保全施設コース：9月4日～5日
- ③港湾施設維持管理コース：9月13日～15日
- ④港湾技術設計基礎コース：9月20日～22日
- ⑤港湾計画基礎コース：9月27日～29日
- ⑥静穏度解析担当者実務コース：10月3日～5日
- ⑦みなとまちづくり担当者実務コース
：10月26日～27日
- ⑧沿岸防災コース：10月30日～11月1日

受講を希望する場合、国土技術政策総合研究所のHPの研修申込フォームから直接申し込むことが可能です。

※ただし、一部「募集については別途案内」と記載された研修（上記①、③、⑥の研修）を希望する場合は、港湾建設課までお問い合わせ下さい。

※港湾管理者の方が研修を受講する場合は、原則有償となります。詳細は上記HPをご確認下さい。

（港湾空港部 港湾建設課）